

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・写真 後藤
山行番.	NO. 2016	
日 時	2023年04月22日(土) 晴	
山 域	飛騨・乗鞍岳(3026m)	
コース	三本滝発 5:00 - 第一壁上 6:05 - 位ヶ原下壁 7:11 - 位ヶ原トイレ 8:30 - 肩の小屋 9:27 - 滑降 - 三本滝 11:14	
標高差	上・下り 三本滝約1810m~肩の小屋2778m=約968m	
難易度	非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい	
雪はまだまだ硬かった		
参加者	後藤、加藤=2名	

早朝、明るくなった三本滝発。雪はやや少ない。カチカチの三本滝ゲレンデにスキーを背負ってアイゼンで上る。ここは一昨年歩きた。傾斜が強く、雪が少ないので、歩きのほうが楽だ。

早朝は霧だったが、太陽が上ると、一面の雲海だった。ツボ足の女性に抜かされた。聞けば、摩利支天岳に雷鳥を撮りに行くといった。この方には、結局、下りでも抜かされた。



三本滝ゲレンデ

雷鳥は、撮影出来なかったようだ。

怪我後、本格的な山岳スキーは初めてだった。背負ったスキーが重く、完全でない首に負担だった。最初の壁からシールで上る。雪は硬いので歩き易い。

位ヶ原下の急斜面を上ると下から何人か上って来た。一人の若い衆に抜かされた。下山時、再びお会いしたが、松本の方だった。我々は、肩の小屋までだが、彼は、山頂まで行って来たといった。若い方は元気がいい。

壁を抜けて、位ヶ原を進む。いつも寒風が強いが、今回は、温かい風だった。後ろから、若い衆が3名やって来た。驚いたことに2名は、「半そで」だった。曰く、「俺らは、代謝がイイから暑い」だった。



位ヶ原



スプリット・ボード



「半ソデ」若い衆

板はスキーと思ったら、スプリット・ボード（板が二つに分かれて、スキーのように歩けるもの）だった。このスプリットは、会友のW君も持っている。2001年4月、蓮華温泉にテン泊し、北アルプス・朝日岳に行ったが、いいスキーだった。

1名が盛んに写真を撮っていた。カメラは、「ハッセル・ブラッド」だった。こんな重いカメラを持参とは、相当こだわりがあるのだろう。そもそも、このカメラは、超高価だ。若い衆が、こんなカメラを使っているのは驚きだった。

左には雄大な乗鞍岳。若者は山頂に直登のようだ。彼らは、次第に遠ざかって行った。

右手に雪のブロックが見えた。位ヶ原の除雪だった。昨年、5月19日に上った時もやっていた。もうじき夏山。除雪は急ピッチで進む。振り返れば、下界は、依然として雄大な雲海だった。



今年の除雪



2022/05/19 の除雪



肩の小屋



トイレ兼シェルター

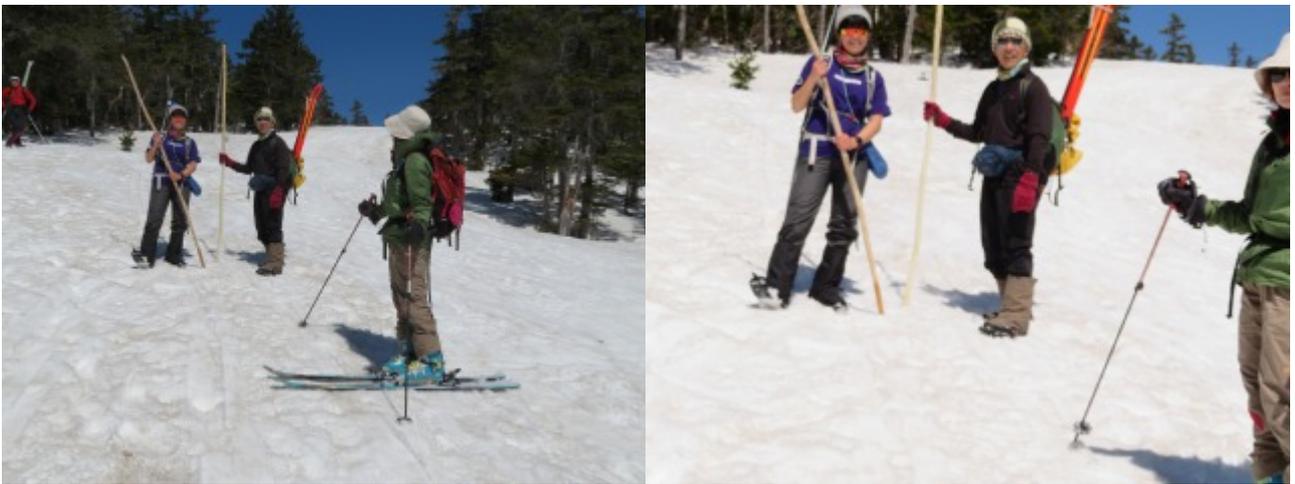
更に進む。前方にバス停のトイレが見えた。昨年と約1ヶ月違う。雪はそれなりに少なかったが、大幅な違いはなかった。

少し休憩して肩の小屋に向かう。多くの登山者は山頂に向かっているが、我々に、そんな元気はなかった。ようやく肩の小屋着。以前なかった、トイレを兼ねたシェルターがあった。空腹を感じたので、ここで食事。依然として天気は良かった。ただ、気温が低く、雪はカリカリ。滑りは、期待できない。滑降に入る。案の定、カリカリで快適な滑降とはいえなかった。

雪の状態は難しい。2日前の20日は、サイコーの「ザラメ」（雪が大きな結晶に変化し程よい状態になること）との記録があった。雪は、毎日毎日変化する。それでも、下部はマアア良くなって来た。上部の壁を下って、ツアーコースに入る。今回は、怪我後、本格的な山岳スキーは最初。疲れて脚が萎えてしまい、スキーが思うようにならない。脚の筋力が落ちると危険でもある。初心者の頃、そうだった。



Kの滑降



ストック代わりにの棒

ツアーコースを下る中で、何人かの方に会った。変な棒を持っている方に会った。ストックの代わりに棒を使って上り滑降する。実は、このような方に会ったのは初めてでなかった。以前、やはり乗鞍岳で見たことがある。同じ仲間かも知れない。

しかし、一体こんなストックで本当に滑れるのか??本来のストックは両手に持ち、リングもあるので潜らない。この棒は、両手に持てないし、リングがないので、潜ってしま

う。以前見た方も苦労していた。・・・だけど、そうまでしても、やりたいのかな??(´
艸`)

往路、上の壁で抜かれ山頂から滑って来た、松本の若い衆に追いつかれた。被っていた、ヘルメットは、「ゴロー社製」のものでなかなか良かった。耳までカバーされ、ヘッドランプも装着できる優れものだった。彼は以前、裾野市に在住だったといった。

山岳スキー仲間に精通していて、富山のH氏の骨折事故を聞いた。ヘリで搬送されたという。あれ程の方でも事故はあるのかと思った。最もスキーをやっていれば、3回は骨折するという。恐らく、リスクを考えていたら「上手くならない」ということだろう。

最後の壁は、雪が少なく、グズグズで怪我が怖く歩いて下った。最後のゲレンデも歩きだった。雪が少ないので仕方がない。下り切って、山に向かい感謝の「合掌」。駐車場で空腹と喉を潤す。残雪で冷やした beer がサイコーだった！！



ゴローのヘルメット



三本滝ゲレンデ



雪溪 beer



美味しいインスタント・ラーメン